

4/13 朝日

ワクチン 高齢者接種開始

GW明けから本格化

高齢者への新型コロナワイルスワクチンの接種が12日、始まった。当面はワクチンの量が限られ、全国で接種が本格化するのはしばらく後となる。東京、京都、沖縄の3都府県では同日、「緊急事態宣言」に準じる「まん延防止等重点措置」も追加適用された。各地で感染が再拡大するなか、いち早く効果が上がるか、時間との勝負にもなりそうだ。▼2面=網渡り、3面=対応「遅い」76%、12面=社説、33面=手探し

一般向けは未定

今回、対象となるのは65歳以上の高齢者約3600万人。米製薬大手のファイザー社製のワクチンが使用され、3週間の間隔をあけて1人2回接種する。自治

ワクチンの供給と接種のスケジュール
持病のある人(約1030万人)や一般人の接種時期は未定

供給状況・見通し	接種の状況・計画	
	医療従事者 約480万人	高齢者 約3600万人
2月 約42万人分 供給開始	17日から 接種開始	
3月 約233万人分 追加		
4月 約613万人分 追加		12日から 接種開始
5月 約2150万人分 追加		
6月 約2252万人分 追加 月末までに高齢者分 の配送完了	ワクチンは1人2回で 6回接種できる注射器 を使うと想定し計算	
7月	終了時期は未定	

1月9回だったという。菅義偉首相は同日、東京都八王子市の高齢者向けの接種会場を視察し、「感染対策部によるが、同日午後7時までに高齢者への接種はまだ実施されていない」とやり方は異なる。政府は6月末までに高齢者向けの接種を終え、3週間の間隔をあけて1人2回接種する。自治

んにお届けできるよう取り組みたい」と話した。

ワクチンが全国の市区町村に届くのは26日の週からで、本格化するのは大型連休明け。5月10日から2週間かけて配達する予定の約93万6千人分（1瓶から6回接種換算）が市町村に届くのは5月下旬以降とみられる。政府は、6月末までに約1億580万回分を配達できるとの見通しを示す。

ただ、感染力の強い変異株による感染が拡大するなどして医療提供体制が逼迫するようになると、ワクチン接種にも影響が及ぶ可能性がある。政府は高齢者向けの接種が終わる時期は明らかにしていないが、官邸幹部は「遅くともお盆の前には全部終わるといふのが目標だ」と話す。

医療従事者（約480万人）は、先行して2月17日から接種が始まつた。厚生労働省などによると、12日時点では約169万回の接種を終え、うち2回目まで済ませたのは約56万人。約2カ

月かけて、2回の接種を終えたのは医療従事者全体会の1割超に及ぶ。

高齢者の次には、持病の人（約750万人）の優先接種が控える。一般向け

ある人（約1030万人）や高齢者施設などで働く人（約200万人）、60～64歳の人（約750万人）の優

先接種が控える。一般向けは最後になるが、いずれも接種スケジュールのめどはたっていない。（坂本純也）

